

## (単元) 戦国大名の登場

## (本時のねらい)

戦国時代において、日本の各地域を治めていた戦国大名がそれぞれの地域で特徴的な領国経営を行ったことを、「分国法」の読み取りを通して考察し、表現する。「分国法」については、史料を口語訳に修正したものを読み取ることで、歴史を物語る史料を適切に読み取る力を身に付ける。そして、史料の読み取りを通して時代背景を考察するとともに、それらの例をもとにして、“自分が領国経営を行うならどのような分国法を制定するか”という、歴史の事象を自分事に捉え理解を深めるとともに、新たな価値を創造する力も身に付ける。

## (ICT活用方法)

授業ではパワーポイントで作成したスライドを提示しながら行う授業形態であり、生徒からは、「見やすい」「歴史の流れがわかりやすい」といった意見が聞かれ、毎回の授業でも同じように電子黒板を用いた授業展開を行っている。

今回の研究授業では、導入の段階において地元で復元されている城の写真を電子黒板で提示し、身近なところにある戦国時代の名残を感じさせ、授業に対する興味関心をひくとともに、城が各地に存在することの理由を考えさせた。

展開のなかで、「分国法」の史料を提示しながら、読み取る際のヒントやポイントを指示することで史料の読み取りがスムーズに行えるようにした。また、史料の訳を提示し、自分たちが読み取った内容と比較することで、どれだけ史料を適切に読み取ることができているかを感じることができるようにした。

## (本時の展開)

時間	学習活動	指導事項	ICT活用方法	備考
導入 5分	本時の目標を理解する。	本時の目標を説明する。	地元で復元されている城を提示し、戦国時代の名残を感じさせる。	
展開 40分	<ul style="list-style-type: none"> <li>白地図に書き込んだ分国法の史料を確認する。</li> <li>分国法の史料をグループごとに読み取り特徴をまとめる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>戦国大名の位置と分国法の分布を地図上で認識できるようにする。</li> <li>班によって異なる史料を読み取らせる。</li> <li>それぞれのキーワードを重視させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>戦国大名の分布を日本地図で示し、各地域の戦国大名を捉えさせる。</li> <li>史料のキーワードやポイントを示し、読み取りを行いやすくする。</li> </ul>	

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・それぞれの戦国大名の政策について比較し、班ごとに発表する。</li> <li>・戦国大名が領国経営で重視したことをそれぞれの分国法の特徴から考える。</li> <li>・それぞれの班が考えた分国法を発表する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・分国法から戦国大名の統治方法や理念を考察させる。</li> <li>・分国法を制定した理由が理解できるように助言する。</li> <li>・戦国大名の立場になって考えられるように助言する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・分国法の内容を示し、自分たちが読み取った内容と比較させる。</li> <li>・キーワードとなる特徴を示す</li> </ul>	
まとめ 5分	・本時の振り返り			※補足など

(授業の様子)



本時の目標

分国法…

自分班の内容を読み取ろう。

分国法の特徴

徳川幕府…

伊豆守…

高田藩…

中津藩…

備前…

備前…

分国法はそれぞれの班で読み取った内容を比較しよう

【自分の考え】

自分班の分国法の特徴を比較しよう

【まとめ】

式名 ( )

ワークシート

(生徒の反応と課題、改善を要する点)

電子黒板の活用は授業を進めるにあたって、黒板の見やすさ・授業をスムーズに進めることができるなど、利点が多く今後も電子黒板を活用した授業を続けていきたいと考えている。一方で、現在は教科書の流れをもとにしたスライドの作成であり、授業の中では教師が主導の場面が多いのが現状である。今後は、生徒が主体的に活動したり、理解を深めることができるような内容をスライドの中に盛り込んでいきたいと考えている。